

ロキカフェ

こどもたちの「やりたい！」という気持ちや声を叶える機会の一つとして、実施している。
こどもの意見聴取・反映の取り組みとして、他に意見箱なども実施しているが、ロキカフェでは館庭で火を起し、職員とこどもと一緒にたき火を囲む空間のなかで、こどもたちの自由な意見を聞く機会としている。

取組の概要

- 実施場所：館庭

火をおこすための木材は、地域の建築業者にお願いして、木っ端を分けてもらっている。
参加したいこどもは、自由にお菓子を持ってきて、火であぶって食べることができる。

- 実施頻度：月1回 16時～17時

- 職員体制：常勤1名（担当は毎月輪番制）

工夫点・留意点

こどもの意見聴取・反映の取り組みとして、他に意見箱なども実施しているが、ロキカフェでは職員とこどもが同じ火を囲む空間のなかで、こどもたちの自由な意見を聞く機会としている。

担当の職員もお菓子を持参し、こどもたちと一緒に火であぶりながら、雰囲気作りを行っている。



初めは「ロキカフェ」のイメージが沸かず、お菓子といってもグミなどを持ってきている子が多く、参加者も少なかった。しかし、継続して実施していくなかで、こどもたちにも少しずつ定着し、マシュマロやホイルで包んださつまいもなどを持ってきて参加する様子がある。職員が大きなすめを持参した回は、初めて見る子も多くとても盛り上がる様子があった。

一緒にお菓子をあぶったり食べたりしながら、こどもたちに「児童センターでどんなことしてみたい?」「やりたいことある?」など職員から声を掛けている。意見についても、初めはなかなか出てこなかったが、繰り返しやりとりをしていくうちに「タスケのチャンピオンシップがやりたい」「バレーボール大会がやりたい」「お泊り企画がしたい」などの意見が出るようになった。実際に、年度末のスポーツ大会ではタスケチャンピオンシップを実施する。

参加者は小学生だけでなく、児童センターに遊びに来た中高生がふらっと様子を見に来たり、火おこしや片付けを手伝ったりする姿もある。

前年度から「ロキカフェ」というプログラム名で実施していたが、どんなことをするのかイメージがしづらいため、名称の変更を検討している。